

10年後の自分とイワテを楽しくするリーダーシッププログラム

未来のワタシゴト創造プロジェクト 実施報告

2022年 7月30日(土)・8月9日(火)・10日(水)



実施の様子を
動画でご紹介しています



note



ジョブカフェいわて
020-0024
岩手県盛岡市菜園1-12-18
盛岡菜園センタービル5階
019-621-1171



GOOD JOB, IWATE!
MANY GOOD JOBS.
いわてで働こう推進協議会

2022年9月発行



プログラム趣旨

実施にあたって

社会課題の視点から「岩手の産業の未来を考えること」を自分事にする

高等学校の「総合的な探究の時間」などにおいては、生徒がリアルな社会課題と出会い、問いを探究していく活動が重要視されています。本プログラムでは、高校生が自分たちが住む岩手の現状や産業について社会課題の視点で理解を深め、岩手で働く社会人のさまざまな思いに触れることで、岩手の未来を自分事として考えたり、将来自分がどのように働きたいかを考える機会を提供します。

実施のポイント

高校生や大学生、社会人という、年齢や価値観、暮らす地域が異なるメンバーが1つのチームとなってフラットに岩手の課題について語り合い解決策を発信することで、それぞれが岩手の「仕事」や「人」の魅力に触れることができる構成としました。

各チームで課題に前向きに取り組む中で、インプットとアウトプットを繰り返しながらアイデアを具体的に形にしていくことの喜びと価値を実感できる、課題解決型ワークショップ形式で実施しました。

「主体的、対話的で深い学び」につながるよう、社会課題を自分事としてとらえるアプローチや他校の生徒とのグループワークによる交流、また今後の生徒自身が興味を持ったテーマを掘り下げたり、生徒自身の今後の探究活動に応用できるよう、探究プロセスの一連の流れをプログラムに取り入れました。

テーマについて

未来の岩手の産業を盛り上げるアイデアを考えよう

岩手の現状をとらえ、ゲスト企業の持つ技術や社会課題解決のための取り組みを高校生たちが探し出し、これからの岩手の未来を盛り上げる発展的なアイデアを自分事として創造する中で、未来の岩手の「働く」を主体的に考えられるようなテーマに取り組みました。

8月9日(火)のフィードバックおよび8月10日(水)の発表会審査員として、下記の皆様にご協力いただきました。

(サポーター) 株式会社岩手日報広告社 沼袋 祐也 様

経営コンサルタント 丹野 渉 様

盛岡市市長公室 都市戦略室 主査 阿部 牧子 様

岩手県教育委員会事務局 学校教育室 指導主事 梨子田 喬 様

(審査員) Coaching Office 代表/盛岡商工会議所青年部 会長 平野 順子 様

岩手県立大学 教育支援本部 高等教育推進センター 准教授 天野 哲彦 様

岩手県教育委員会事務局 学校教育室 学校教育企画監 度會 友哉 様

岩手県商工労働観光部 雇用対策・労働室 室長 三河 孝司 様

事前準備

プログラム実施にあたり、受講意欲の向上と当日の円滑な運営のため、各参加者にむけてオリエンテーションや情報提供をおこないました。

ゲストインタビュー動画の提供

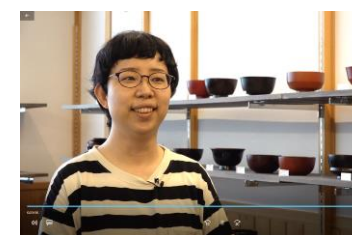
7月中旬

ゲストのみなさまには、事前にインタビュー動画の撮影にご協力いただきました。

生徒は自分たちのチームのゲストはもちろん、自分が興味のある他のゲストのインタビュー動画を視聴し、感想やゲストに聞いてみたい質問などを事前にまとめてもらいました。ゲストのさまざまな仕事について知ったうえで当日の話し合いに臨むことで、岩手の仕事への理解もより深まります。

〔動画の内容〕

- ・会社概要、仕事内容
- ・仕事のやりがいや大変さ
- ・地域とのつながり
- ・社会課題への取り組み など



また、動画では伝えきれなかったゲストの企業情報や仕事内容について詳しく紹介する資料も作成し、動画とあわせて提供しました。



自己紹介シートの共有

7月中旬

高校生と大学生が「今一番頑張っていること」「10年後の自分」「私の好きな○○」などの項目で自己紹介をまとめ、参加者全員で共有しました。ここで共通の趣味や話題が見つかったメンバーもいました。



【大学生】事前オリエンテーション

7月29日(金)



県内外から参加してくれた大学生が、プロジェクトの目的やゴール、当日の流れや高校生・社会人ゲストとのコミュニケーションのポイントについて共有しました。高校生とゲストの間に入っての進行サポートという難しい役割に挑戦するため、ロープレなども交えながら自身の役割をしっかりと認識して当日に備えました。

社会人ゲストのみなさま



伝統工芸

安比塗漆器工房
代表 工藤 理沙さん



建設業

株式会社小田島組
ブランディング部
係長 小志戸前 麻里さん



運輸業

三陸鉄道株式会社
運行本部 運行部
運転士候補生
成瀬 賢紘さん



製造業

炎重工株式会社
取締役 萩野谷 征裕さん



スポーツ

株式会社岩手ビッグブルズ
代表取締役社長
水野 哲志さん



医療・福祉

医療法人社団敬和会
介護老人保健施設まつみ
介護副主任
照井 翔子さん



農業

菅原牧場
酪農家 藤田 春恵さん



小売業

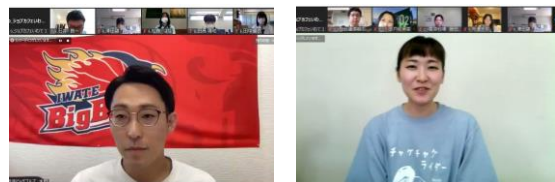
株式会社薬王堂
人事部 馬場 麻衣子さん

プロジェクトの様子

3日間で21校46名の高校生、8名の大学生サポーター、8名のゲストの皆様にご参加いただきました。

オンラインプログラム

7月30日(土)



13:30～ コミュニケーションプログラム

グループワークを通じて、チームのメンバー同士で交流を深めていきます。

14:20～ キャリア開発プログラム

事前にチェックシートに答え「物事への取り組み方」から自分自身を知ることについて理解を深めました。

14:50～ ゲストトーク

インタビュー動画を見て感じたことや、ゲストに聞いてみたいことなどを質問し、交流しました。

プロジェクトの様子

岩手教育会館 2022年8月9日(火)、8月10日(水)

8月9日(火)



10:15～ 知事との交流

達増知事から岩手の将来や若者に期待することなどのお話をうかがった後、生徒3名から知事へ岩手県の労働環境や働き方等について、気になることを知事へ質問しました。



11:00～ ゲストトーク

岩手の未来を盛り上げる為に、ゲストの産業を取り巻く社会課題や解決のためにどのようなことに取り組んでいるかなど、ゲストと一緒に考えを深めました。



13:00～ 課題の再検討・発表準備

よりよいアイデアにするために何が必要か、チームでさらに考えていきます。



15:30～ サポーター登場

各チームのアイデアにサポーターのみなさんからフィードバック。明日の発表まであと一歩！

8月10日(水)



9:30～ 発表準備

発表資料はパワーポイントで作成。各チームアイデアを形にしていきます。メンバー全員で役割分担し、発表に向けてラストスパート！



13:30～ アイデア発表会

ゲストや参加校の先生方、関係機関の皆様など33名にご参加いただきました。

発表会の様子はオンラインでも配信し、先生方や生徒など19名に視聴いただきました。

各チームの発表

5分間で各チームがそれぞれ発表。審査員からの質問にもしっかり答えていました。

表彰式

来場者とオンラインの参加者が投票し、その結果をもとに審査員が協議、4チームが表彰されました。



Aチームのアイデア

漆器の認知度up作戦！

ゲスト：安比塗漆器工房 代表 工藤 理沙さん

チーム：ガーベラ



岩手県立盛岡第二高等学校	吉田 絢音
岩手県立盛岡商業高等学校	小松 拓海
岩手県立一関第一高等学校	長田 純也
岩手県立花泉高等学校	佐藤 葵
岩手県立軽米高等学校	安藤 早矢加
岩手大学	大向 さつき



漆器の長所、保温性に注目して、冬場の食堂やカフェで宣伝

安比塗漆器工房で制作し販売している漆器は「荒沢漆器」と呼ばれていた地元の伝統工芸品を復活したものです。独特の色合いやシンプルなデザインが魅力の食器で、実用性も高いのですが、高校生ら若い世代にとっては「関心が低く、その良さが知られていない」ものでした。その課題に取り組みチームが考えたアイデアは、漆器の高い保温性に注目し、その長所が生かせる冬に地域の食堂やカフェに漆器を出してもらい認知度を上げようという試みです。

漆を広めるために、
・30～40代を対象として、冬季期間の地域イベントに参加する
➡ かまくら食堂に出店
　　& 冬のカフェを開催
➡ 漆器の良さを実感してもらおう

かまくら食堂では、
・食器を漆器にする
・温かい料理（ひつまみやそばなど）を出して、漆器の保温性を実感してもらう
・料理を待つ間、漆器に関するパンフレットを読んでもらう

冬のカフェでは、
・コーヒーやお茶など
・オリジナルの漆器を販売
・来店した人にクーポン券を配布
・カフェで使った漆器を期間外に中古品として価格を落として販売

ここがポイント！

取り組みが具体的な点が優れています。長所の一つは保温性。そこに注目し、冬→かまくら→カフェとつながっていきます。盛りつけるのは郷土料理の「ひつまみ」。絶対においしく感じると思っています。カフェで使った漆器は中古品として販売。価格が高いという課題にも取り組みました。

Bチームのアイデア

岩手ビッグブルズの観客動員数を増やそう

ゲスト：株式会社岩手ビッグブルズ 代表取締役社長 水野 哲志さん

チーム：BB団



岩手女子高等学校	田中 優衣
盛岡中央高等学校	松森 はな
岩手県立花巻北高等学校	吉田 圭太
岩手県立千厩高等学校	澤田 碧
岩手県立住田高等学校	大澤 那緒
岩手県立大野高等学校	田高 陽和
国土館大学	石井 良一



選手によるお悩み相談会で観客との距離を縮め、集客力をアップ

観客数増はビッグブルズの長年の課題です。チームはまず数値目標を決めました。1日の観客数を現在の2倍の2千人に。今の観客で多いのは30～40代の女性と知り、ターゲットに盛岡近郊に住むバスケット好きの10～20代の若者たちを選びました。ハーフタイムや試合終了後の時間を使い、選手によるお悩み相談会を開きます。これで親近感もぐっと増します。もう一つは、ビッグブルズがやってこなかったYouTubeにプレー集をアップすること。そんなアイデアで岩手のスポーツ文化を盛り上げます。

目標
1日の観客数 2,000人/日
1年間の観客数 100,000人/年
現在の約2倍！

私たちの企画
選手をもっと見てもらおう
・お悩み相談会
・YouTubeにプレーをアップする

企画の内容
1, お悩み相談会
試合を見に来た人が一人につき一用紙に相談内容を書き、ハーフタイムや試合終了後に選手が答える！
2, YouTubeにプレー集をアップする
好プレーの場面を切り抜き、2～3分程度の動画にして多くの人に見てもらおう

ここがポイント！

選手によるお悩み相談会はなかなか思いつかないアイデアです。試合を見に来た人が用紙に相談内容を書き、選手がそれにこたえます。どんな悩みが出てどんな回答が出るのか。選手一人一人の個性が出てくること間違いなし。プレーヤーがぐっと身近になり、新たなブースターが誕生します。

Cチームのアイデア

伝われ就活を目指す学生に！
～岩手の未来を「創る」チャンス～

ゲスト：株式会社小田島組
ブランディング部 係長 小志戸前 麻里さん

チーム：スマートかんとりー



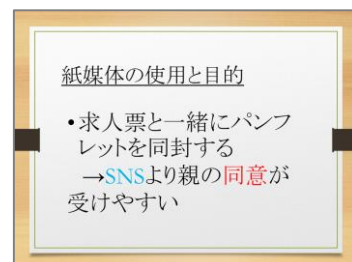
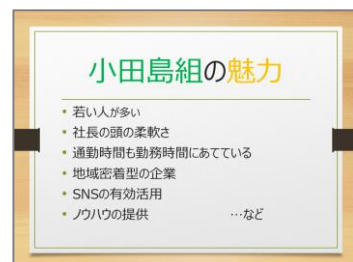
岩手県立盛岡第二高等学校	宅石 一葉
岩手県立雫石高等学校	久慈 祥汰
岩手県立岩谷堂高等学校	柏山 千夏
岩手県立一関第一高等学校	伊藤 勝悟
岩手県立高田高等学校	菅野 綾音
岩手県立久慈高等学校長内校	畠山 歩
盛岡大学	及川 ひより



ゲーム「マイクラフト」に“理想の田舎”を再現してSNSに投稿



従業員に若い人や女性が多く、通勤も勤務時間という建設業のなかでも先進的な小田島組。そのような取り組みをしている県内企業を若者に知ってもらうため「マイクラフト」というゲームの中に小田島組が掲げる「スマートカントリー（カッコいい田舎）」を再現し、完成した動画や写真をSNSに投稿します。狙うのは就職活動中の学生。求人票にパンフを同封し保護者にもアピールします。



ここがポイント！

建設業のイメージをよくするため、小田島組が追求することの一つは「カッコよさ」。チームもその理想を追求しました。教育現場からもプログラミングやアクティブ・ラーニングに効果があると期待されている「マイクラフト」と「建設業」をかけあわせ独自のアイデアを生み出しました。

Dチームのアイデア

介護職に親しみのなかった小学生の介護職に対する
イメージを良くするには？

ゲスト：医療社団法人敬和会
介護老人保健施設まつみ 介護副主任 照井 翔子さん

チーム：Katsuo!!

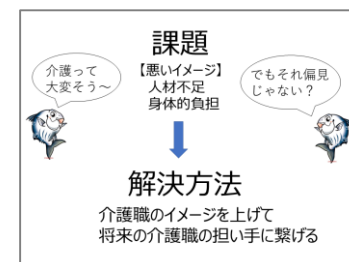


岩手県立盛岡第一高等学校	藤倉 万結
岩手県立盛岡商業高等学校	高橋 洋徳
岩手女子高等学校	佐藤 珠羽
岩手県立千厩高等学校	伊藤 翼
岩手県立久慈高等学校長内校	鈴木 姫花
岩手県立軽米高等学校	上村 麗
盛岡大学	岡田 美悠



小学生高学年がターゲット。高齢者体験や触れ合い、クイズを通じて 介護職への偏見をなくし、興味を持ってもらう

介護職の人手不足解消のアイデアとして、小学高学年を対象にして介護について知り、体験するイベントを開催します。具体的には小学5,6年生を対象に10月に学校で高齢者の疑似体験をし、2月に施設を訪れてもらい、利用者と一緒に遊んだり食事をします。イベントでは介護福祉に関連したクイズで介護職への興味を持つきっかけをつくるとともに、業種への偏見をなくします。



ここがポイント！

介護職のイメージアップのために、小学生のころから高齢者介護について親しんでもらおうというアイデアです。高学年に狙いを定めて年2回、それも10月と2月と年度後半にイベントを開きます。利用者との触れ合いだけでなく、クイズなど楽しむためのひと工夫があるのがポイントです。

Eチームのアイデア

心を繋ぐ新！三陸鉄道 MANIAC旅

ゲスト：三陸鉄道株式会社 運行本部運行部
運転士候補生 成瀬 賢紘さん

チーム：Eclat（エクラ）



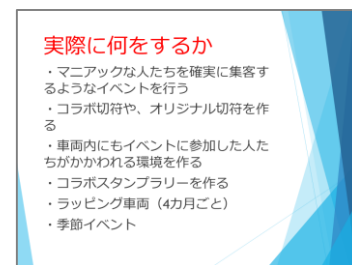
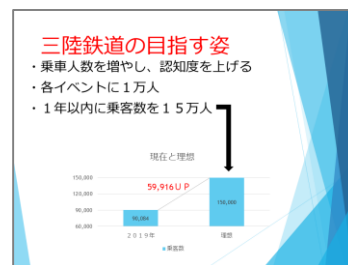
盛岡中央高等学校	木村 知世
盛岡市立高等学校	東舘 恒汰
岩手県立北上翔南高等学校	菊地 紗良
岩手県立花泉高等学校	中村 れおな
岩手県立住田高等学校	千田 詢
岩手県立福岡高等学校	黒澤 萌
神田外語大学	佐々木 陽



マニアックな鉄道ファンのためのイベントを開催 ユニークな行事が話題となりメディアが取り上げ知名度アップ



開業以来、三陸鉄道が抱える課題は乗車人数を増やすこと。そのために認知度を上げることに取り組みました。目標は1年以内に乗客数を6万人増やし、15万人に。利用者は大きく分けて地域の住民、生徒や学生、そして全国から集まる三陸鉄道のファンです。狙ったのは「マニアックな人たち」。そんなファンを確実に集めるための季節イベントを開催します。



ここがポイント！

ターゲットを「マニアックな鉄道ファン」としっかり絞ったのがアイデアのポイントです。そんなマニアックがイベントが話題となり、メディアで取り上げられるという知名度アップ作戦です。発表では「ラッピング車両」の費用、収益を計算して経済効果を具体的に示しました。

Fチームのアイデア

牧草も！？作る酪農家

ゲスト：菅原牧場 藤田 春恵さん

チーム：楽農家

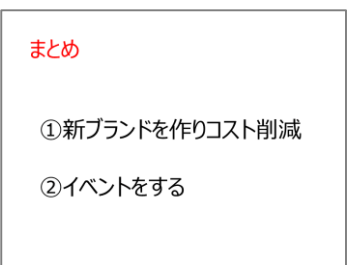


岩手県立盛岡第二高等学校	菊地 莉瑚
岩手県立盛岡農業高等学校	若狭 優羽
岩手県立花巻北高等学校	寺澤 未来
岩手県立千厩高等学校	小山 翔也
岩手県立住田高等学校	小野 恒臣
岩手県立大野高等学校	灰玉平 綾乃
岩手県立大学	北田 ゆずな



西和賀町の自然や牛のたい肥を生かし、牧草の新ブランドを作ります。

取り組んだのは畜産農家の課題です。岩手県の畜産業を盛んにするため、オリジナルの牧草の新ブランドを作ります。具体的には「チモシー」という栽培品種を、菅原牧場がある西和賀町の雪解け水で牛のたい肥も利用して育て「笑W（ワラワラ）」＝藁（わら）に加え、ストレス解消で牛も笑うという意味＝という新ブランド名で売り出そうというアイデアです。



ここがポイント！

畜産農家がオリジナル飼料を作るというユニークなアイデアが、岩手の畜産を変える力になるかもしれません。乳牛、肉用牛どちらも放牧などストレスのない環境でおいしい牛乳を作り、おいしい肉になります。牧草のブランドのネーミングにもこだわりました。

Gチームのアイデア

岩手が誇るロボット産業へ～岩手の漁業に炎を～

ゲスト：炎重工株式会社 取締役 萩野谷 征裕さん

チーム：火重工



岩手県立盛岡第一高等学校	高橋 稀琳
盛岡市立高等学校	副島 颯太
岩手県立一関第一高等学校	伊藤 知希
岩手県立高田高等学校	近江 姫奈乃
岩手県立伊保内高等学校	落安 美嘉
福島大学	馬場 桃香



コンテストの開催と、水族館や水上花火大会でのイベントで 未来のエンジニア育成とロボット漁業の知名度向上を目指す



炎重工は魚群自動制御や自動運転船舶ロボットなどの独自技術を持つ企業です。まだまだ認知度は低く、県内にはロボット産業に携わるエンジニアが少ないという課題がありました。チームでは東北の学生や企業に呼びかけコンテストを開き、技術者の育成を目指します。また同社の技術を県内の水族館で披露したり、水面に浮かぶ自動運転の乗物から水上花火を見るイベントを開催するなどPRを図ります。

私達の理想

岩手県の
ロボット漁業が発展して
ロボット産業界でNo.1になる

施策①
「未来の漁業を支えるものづくりコンテスト」の実施

概要：漁業に関するものづくりを目的としたコンテスト。各部門ごとに賞を設ける。（小・中学生はアイデアのみ。）

参加資格：東北の学生・企業

施策②
県独自の観光名物の作成

概要：炎重工独自の技術を用いて、岩手でしか見ることのできない観光名物を作る。

主な名物
・生体群制御の技術の展示。岩手の水族館に設置しそこでしか見られない技術を
・海床を利用した観光。花見、花火など様々な用途で使える。

ここがポイント！

コンテスト開催で未来のエンジニア育成を目指すこととあわせて、独自技術を水族館や花火会場で一般の方にも披露し、観光とマッチアップした知名度向上を目指します。幅広い層へのアプローチだけでなく、水上観光の安全性向上に言及したりするなど現実的な着眼点も高い評価を受けました。

Hチームのアイデア

ドラッグストアの中で「薬王堂しか勝たん！」 と思われるには

ゲスト：株式会社薬王堂 人事部 馬場 麻衣子さん

チーム：にじいろ



岩手県立盛岡農業高等学校	高橋 里菜
岩手県立雫石高等学校	開田 正輝
岩手県立北上翔南高等学校	深田 祐衣
岩手県立高田高等学校	大坂 悠人
岩手県立軽米高等学校	高橋 茉央
岩手県立伊保内高等学校	山下 千明
盛岡大学	土橋 奈波



学生をターゲットに憩いの場やアプリを提供、その名は「楽王堂」 お客さまの健康サポートをさらに充実



数あるドラッグストアの中でも薬王堂が一強になるような取り組みを目指しました。ターゲットはあまり利用が多くない「学生」。休憩スペース「憩いの場」を設置したり、学生専用のアプリを作ります。スペースやアプリの名前は「楽（らく）王堂」。誰でも気軽に利用でき、薬王堂が今提供しているさまざまなサポート、特に「お客さまが健康でいられる」サービスをより充実させます。

ターゲット

↓

学生

勉強頑張りたい！

将来こうなってほしい！

- ・誰もが気軽に利用できる。
- ・今あるサポートをもっと充実させる。
- ・消費者の方が薬王堂を好んで来店したいと思えるようになってほしい。

企画内容

- ・休憩スペース「憩いの場」
- ・学生専用アプリ

そう！「楽王堂」です！

ここがポイント！

ドラッグストアが多くあるなか、付加価値をつけて差別化しようというアイデアです。狙いは普段はあまり薬王堂を利用しない学生。勉強の疲れを癒やしたりするための憩いの場を開放します。アプリも導入し、学生ら若手の利用者との接触機会を増やします。



プログラムに参加して印象に残っていることはどのようなことですか？

高 校 生

今までこういうチーム活動のようなことをやることは多かったけれど、自分が話を自主的にまとめたり、チーム全体で短い間に企業の課題の改善のためにこんなに考え出したことがなく、終わってみてすごくやりがいを感じることができた。

やはり、このプロジェクトを通して岩手で働くことも良いなと思えし、消費者側の視点と実際に働いている人の視点は違ってくるなと思った。プロジェクトを考えるのにも「この企画は本当に実現できるのか」「そもそもニーズはあるのか」「もたらされる効果は何なのか」まで考えなければいけなく、大変だと思ったし、見方も変わった。

それぞれのチームに課題があって、テーマがあっての話し合いでしたが、考えるだけでなく、進めていくうちにそのことの知識だったりとか学べたことがたくさんあって、自分のためにもなったと思います。2日間でこんなにもチームワークが良くなると正直思っていなかったです。けど、すごい良いチームになれたと思います。

アイデアを組み合わせたり、新たな付加価値を見出そうしたり、実際のようすを現状から見直してみたりすることを通して、企画が磨かれ、だんだんと具体性のある効果的なものになっていく過程が面白く、印象に残っている。

大 学 生

初めは緊張からか中々自分から意見が出ず、話があり進まなかった場面も多かったが、日数を重ねることで少しずつさらに何かのきっかけがあることでグループ全員の緊張がほどけ、自分から進んで発言することが増えていたと感じた。きっかけ作りがとても大切なんだなと感じた。

他の人とのコミュニケーションにもなったし、短い期間でプレゼン内容をすべて決める。しかもほぼ初対面の人たちでっていう難しさにやりがいももてた。

企業や大学生、他校の方々と関わる**ことが出来た**。自分から話そうと思って話すことや、色々な人の意見を聞くことなど、全てが自分のためになったと思う。色々な考え方や話し方を得られたことも良かった。

他校の生徒さんや、現役の大学生、社会人の方とアイデアを生み出したり、それについて**具体的にどうすべきかを考えて自分たちの案をつくりあげていくのが楽しかった**です。立場の違いからか色々な指摘があって生み出したものが鍛えられていく感じがわくわくしました。

役割分担が大変かもしれないという予想をしていたが、一人一人が自分から役をもらいにいこうとしていた。自分から動くことがチームの仲や話し合いの進み具合に大きな影響を与えることが実感でき、良い経験をしたと思う。

チームで何かを創ることが苦手だったが、誰も相手を否定することもなくむしろ尊重して話を聞いたり考えを述べたりしていたので、苦手を少しだけ克服することが出来た。

話し合いを進めていく中で計画の**目的やターゲットを絞って考えることの重要性**を学べた。また、高校生が自分にはない視点から意見を提案していて刺激を受けたし、グループワークの面白さもわかった。



いわてで働くことについて、印象が変わったことはありますか？

高 校 生

肩の力を抜いて自分にできる最善のことをすれば多くの仕事はできるし、「岩手だから」と何でも出来ないとフタをするのはもったいないと考えました。

岩手は若い人を取り入れるとか先進的な職場はあまりないんじゃないかと思っていたけれど、小田島組さんの話を聞いてすごく進んでいるなと思ったし、若い人も働きやすいような職場をつくりあげていくというような今からの時代に必要なことを岩手でもしているんだなと思いました。

炎重工さんのように最先端のテクノロジーを用いた産業が岩手で行われているなんて知らなかったから、都会に行かなきゃできないことは本当はもっと少ないかもしれないと思った。どの企業も共通して“人が少ない”という課題があったと思うので、自分も将来岩手の人口の少なさにアプローチしたいと思った。

岩手県内で働くことについて課題は多いところはあるけど、努力や工夫をすれば何でもできる可能性が大々くあるということが分かったし、自分の夢は県外に出ていかなくとも叶えられるかもしれないとも思えた。

大 学 生

これまで、「いわてで働く」ということに対して、自然や岩手にある資源など、物と人とのつながりという印象でしたが、今回の活動を通して「企業と企業のつながり」や「店とお客さん（地域）とのつながり」また今回のように「企業と高校生（新しい視点のアイデアマン）とのつながり」があることを感じ、岩手ならではのつながりが、活きるような働き方を自分もしたいと思いました。

「岩手は田舎であまりパツとしない」という印象があったがそんなことはなかった。分野の異なりはあれど、ゲストの方がいきいきと自分の仕事や岩手のことを話しているのを聞いて、岩手の良さを知るとともに、岩手が他の県より勝るところも知れて何だか嬉しかった。

いわての企業さんもスキルアップや地元の為にというのを考えて実際にやっていると知れた。こういう職場であれば私も働きたいと思った。

岩手の産業の成長に驚き、今まで考えたこともない活動がたくさんできそうだと感じた。

いわてで働くところなんてあんまりないだろうと思っていたけれど、いわてにも楽しい企業はあるし働く上で自分たちがアイデアを出すことで「やりがい」や「楽しさ」にもつながっていくんだなと思った。担い手不足はどこの企業でも課題になっているなど感じたし、それをカバーする取り組みもそれぞれあって感心した。

自分が思っている以上に岩手には若い力を**応援する取り組み**があって、すごく面白いと思った。

せっかく全国の中でも抜きんでているのにあまり知られていない企業があることが今回よく分かったので、いわての企業についてもっと知っていきいたいと思った。「いわてだからできること」を活かした仕事に自分も携わりたいと強く考えるようになった。

「岩手にこんな力強い企業があるんだ」と気づくことができたので、より岩手で就職しようという気持ちが強まりました。